



令和3年度決算に基づき、経営戦略に掲げた事業計画と経営基盤強化の取組について進捗状況を検証した。

## 1 事業計画の進捗状況

### 【普及拡大事業】

未普及地区解消に向けた公共下水道の整備

- ・整備地区 : 東藤島地区、東郷地区、一乗地区、麻生津地区 等
- ・整備延長 : 約 18km
- ・人口普及率 : 97.5% (昨年度から 0.5 ポイント増)

### 【管渠更新事業】

ストックマネジメント計画に基づく、管路の老朽化対策

- ・管内カメラ調査及び目視調査 : 15.5km
- ・管渠改築工事 : 2.9km
- ・新明里橋水管橋耐震補強・補修事業 (R3~R4)

### 【処理場・ポンプ場の更新事業】

ストックマネジメント計画に基づく、施設の老朽化対策

- ・日野川浄化センター、大瀬ポンプ場等の設備更新、長寿命化
- ・美山浄化センター増設工事の完了

### 【雨水対策事業】

浸水被害軽減に向けた施設等の整備

- ・加茂河原ポンプ場更新事業 : 本体土木工事、排水樋管工事
- ・足羽ポンプ場更新事業 : 基本設計業務
- ・耐水化事業 : 耐水化計画策定業務、耐水化工事 (日野川浄化センター 外)
- ・浸水対策事業 : 下水道内水ハザードマップの改定、排水施設整備、排水ポンプ車購入 等



<加茂河原ポンプ場更新工事>



<下水道内水ハザードマップ>

### 【施設の耐震化事業】

施設の耐震化の推進

- ・簡易耐震診断調査業務 (鷹巣浄化センター、菟ポンプ場)

## 2 経営基盤強化の取組

### 【事業の効率化】

- ・ 不明水対策  
調査距離：約 5.1km  
改築延長：約 0.9km
- ・ 消化ガス発電  
令和 3 年度発電量：約 232 万 kW  
二酸化炭素削減量：約 1,086t
- ・ 施設の統廃合  
羽生浄化センターの廃止（美山浄化センターへの統合）

### 【収入の確保】

- ・ 過年度使用料収納率 99.8%
- ・ 交付金・補助金の要望
- ・ 使用料体系の検証

### 【見える化】

上下水道のミカタの発行  
年 3 回 全戸配布



上下水道展の開催  
1,565 人来場



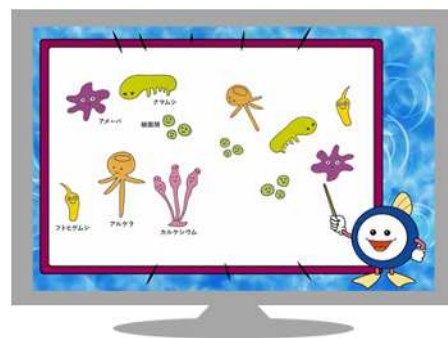
マンホール・ワン・コンテストの実施



< 令和 3 年度最優秀作品 >



広報用 DVD の製作  
市内公立小学校（51 校）配布



マンホールカードの配布  
2,784 枚配布



< 「丸い・落ちない・スべらない」  
合格まんぼ～るカード事業 >

### 【組織の活性化・人材育成】

- 研修：10 回  
（危機管理、雨水対策、事業計画、排水ポンプ車操作、施設見学等）
- 訓練：企業局 BCP 訓練、災害実施訓練（五領川浄化センター）



< 企業局 BCP 訓練 >

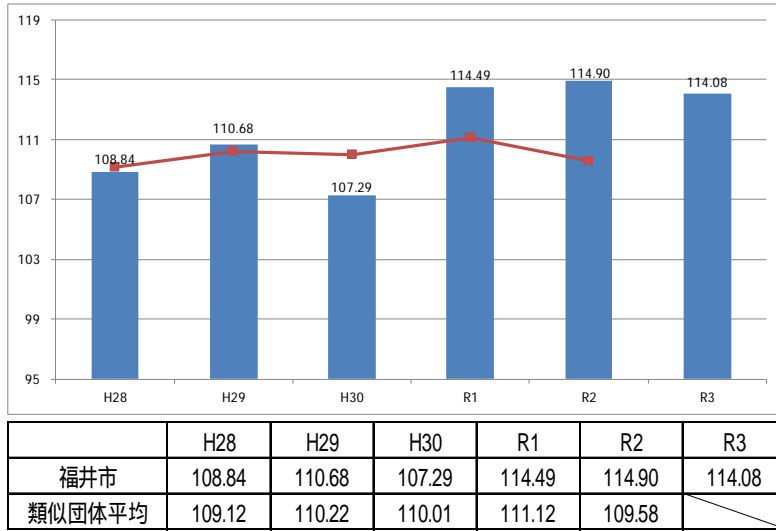


< 排水ポンプ車操作講習会 >

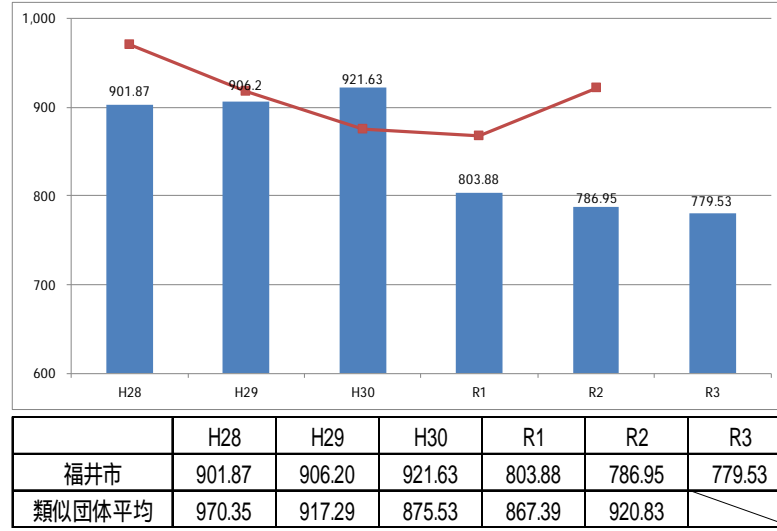
### 3 経営指標

#### 【経営の健全性・効率性】

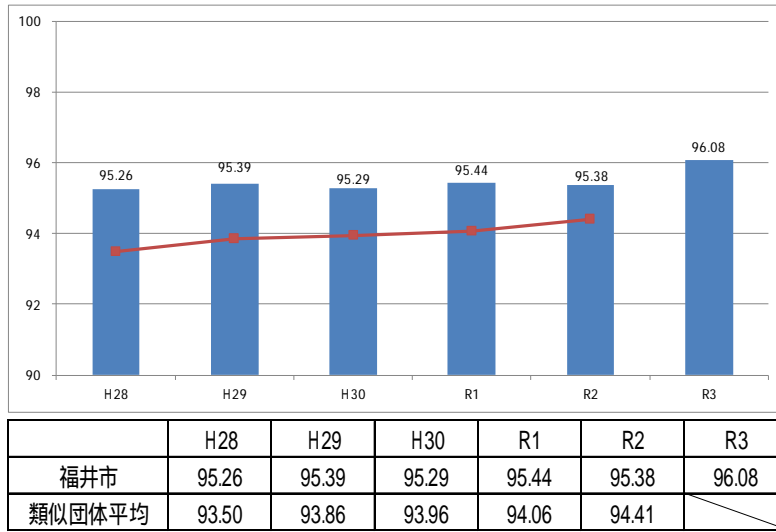
経常収支比率 (%)



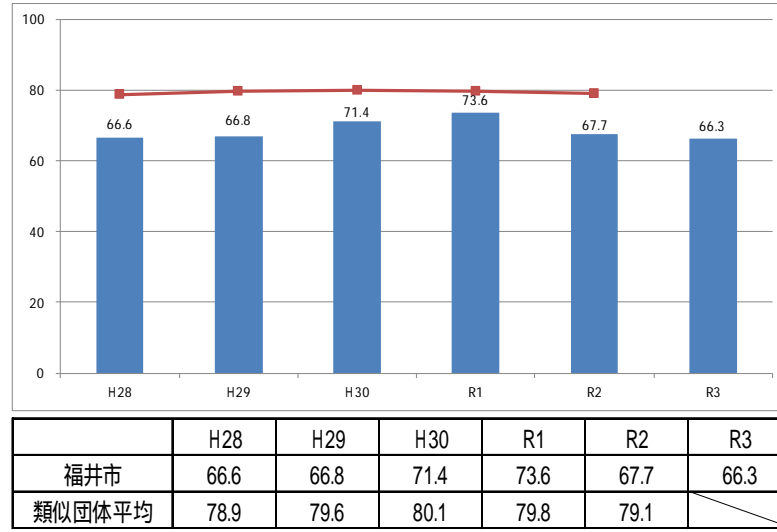
企業債残高対事業規模比率 (%)



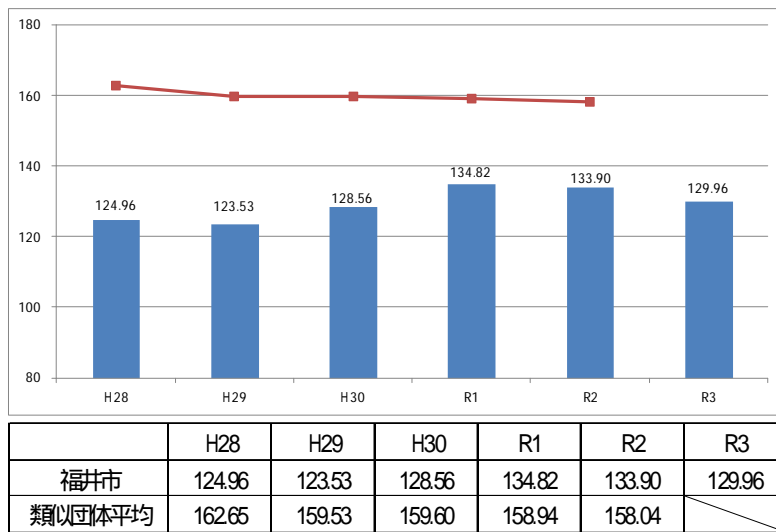
水洗化率 (%)



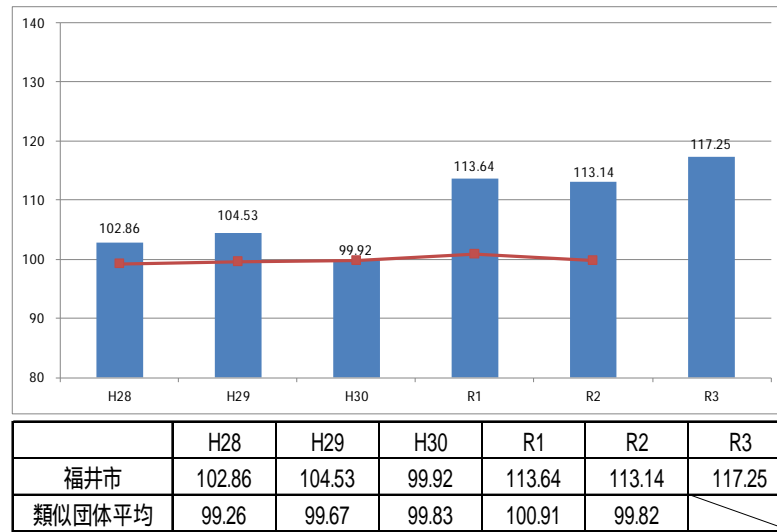
有収率 (%)



汚水処理原価 (円)



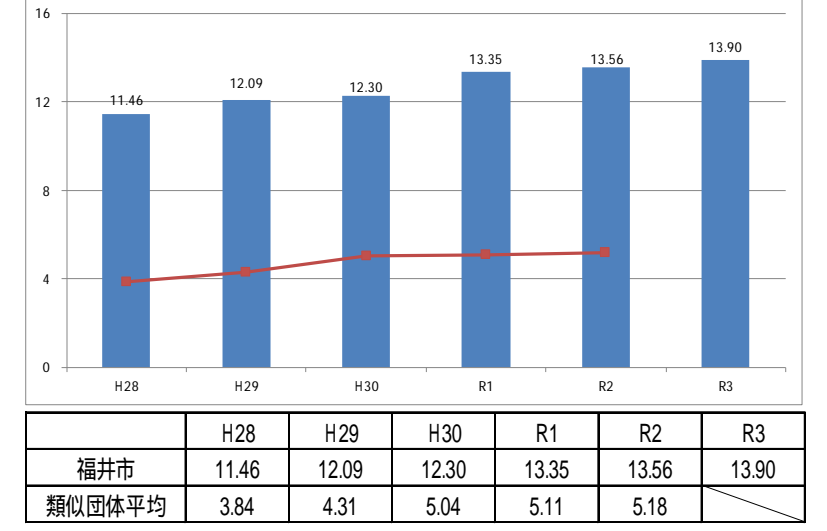
経費回収率 (%)



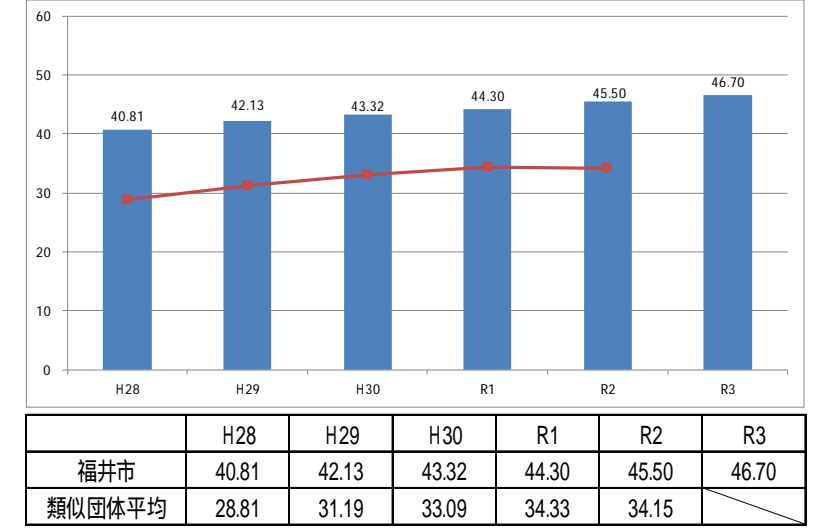
- ・「経常収支比率」、「経費回収率」については100%を上回っている。
- ・「企業債残高対事業規模比率」については、類似団体より低い水準で推移し、健全な経営状態といえる。
- ・「有収率」については、類似団体より低く、今後、不明水対策により改善していく必要がある。

#### 【老朽化の状況】

管渠老朽化率 (%)



有形固定資産減価償却率 (%)



- ・「管渠老朽化率」、「有形固定資産減価償却率」とともに、類似団体より高く、老朽化が進んでいる。
- ・今後、ストックマネジメント計画に基づく、効率的な老朽化対策に取り組んでいく必要がある。



## 4 経営状況

### 【決算状況】

( )内の数値は対前年度増減率

収益的収支：収益面では、使用料収入の減少などにより、営業収益は6,693百万円（ 2.2%）となった。

また、営業外収益は2,688百万円（ 1.4%）となり、これらを合わせた総収益は9,382百万円（ 2.0%）となった。

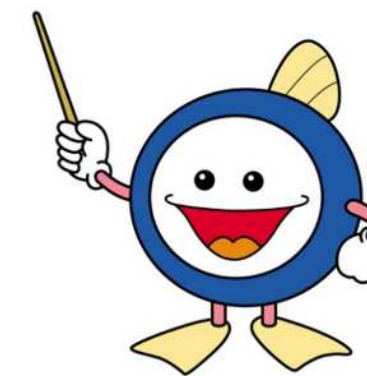
費用面では、企業債利息等の減少により、総費用は8,277百万円（ 1.5%）となった。

この結果、当期純利益は1,104百万円（ 5.4%）となった。

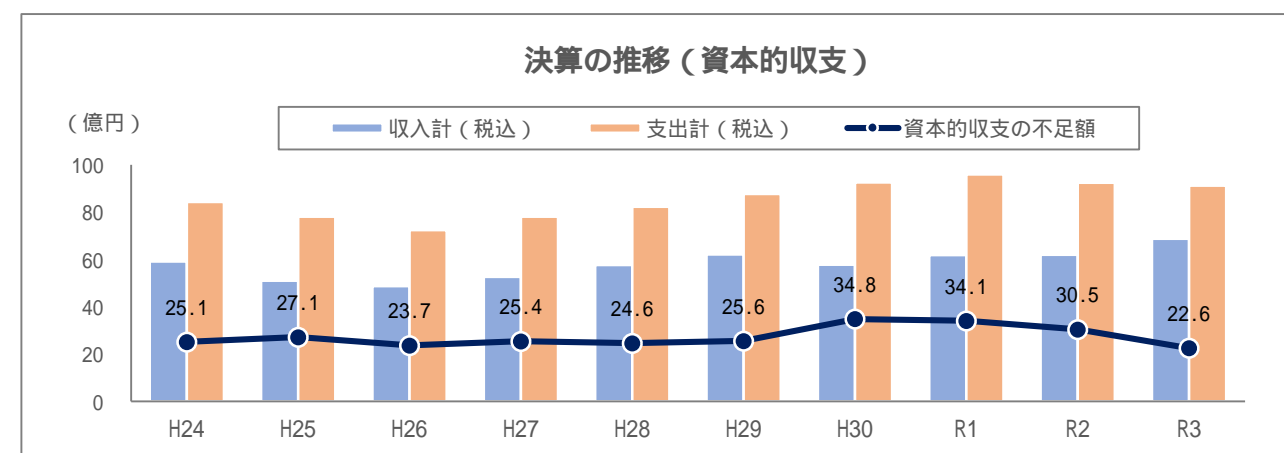
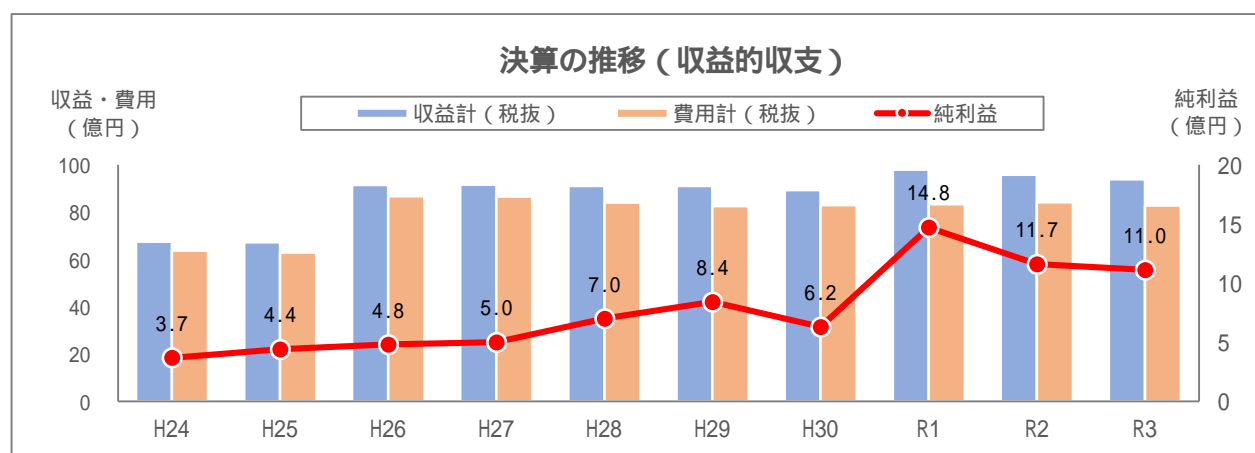
資本的収支：収入面は、企業債や補助金の収入で6,855百万円（ +10.8%）となった。

支出面では、償還元金が増加した一方、加茂河原ポンプ場更新事業の繰越しにより、支出額は9,113百万円（ 1.3%）となった。

この結果、資本的収支の不足額は2,258百万円となり、留保資金や収益的収支で生じた利益等で補填している。



<下水道マスコットキャラクター「スイスイ」>



### 【経営戦略との比較】

【単位：億円】

	収益的収支			資本的収支		
	収益	費用	純利益	収入	支出	不足額
経営戦略（改定前）	93.6	87.1	6.5	85.4	117.2	31.8
経営戦略（改定後）	92.8	82.1	10.7	99.4	134.0	34.6
R3決算	93.8	82.8	11.0	68.5	91.1	22.6

- ・収益的収支については、概ね経営戦略どおりの結果となった。
- ・資本的収支については、建設改良事業の繰越しにより収入・支出ともに減少した。一方、繰越し事業に係る企業債・国庫補助金の一部を令和3年度中に収入したことにより、収支不足額は経営戦略と比較し減少した。
- ・資本的収支不足額の乖離については、事業の繰越しにより一時的に発生したものであり、事業が進捗することで解消することが予測される。